

白いカルガモ

9月16日、横手市榎沢沼で白いカルガモ2羽が見つかった。

普通のカルガモは体全体が茶褐色で地味な色合いだが、群れの中に明らかに白っぽいカモが混ざっていた。遠目ではミコアイサかとも思われたが、どうも違う。

双眼鏡で眺めると、体の大きさとクチバシの配色からカルガモであることは間違いありません。2羽とも全体が白に近く、やや黄色味がかっています。浅瀬で殆ど移動することなく、羽繕いなどしてのんびりと過ごしている。

沼には、他にオオバン、カンムリカイツブリやカイツブリ、ダイサギなどが見えます。ここは釣り人もなく、安心して過ごすことが出来る環境なのでしょう。



右2羽のカルガモとは、明らかに違いが分かります。

白いカモは白化、バフ変と呼ばれ、遺伝子は正常でメラニン色素はあるが減少しているもの。目は黒く、ほとんどの白いタイプはこれ。(メラニン遺伝子情報の欠損による白化と、瞳が赤く見えるのがアルビノで、かなりまれ。)

どちらも希に生ずる現象で滅多に遭遇することはありませんが、今回は2羽同時に見られました。



足の色と、クチバシはカルガモと違いがありません。



もう1羽の方もそっくりな色合いです。

私は過去に、ニューナイスズメやトビ、カケス、イカルチドリなどの白い個体を撮影したことがあります。いずれも偶然に見つかったものです。

白いカルガモを見つめながら、23年前白いマガモに出会ったことを思い出した。2000年11月中旬、玉川と雄物川合流点近くで撮影した時は、金色に輝いて見えました。

今回の櫛沢沼のカルガモは、昔の記憶を呼び戻してくれる出会いでした。



羽を広げた時に、三列風切りが濃紺に輝いて見える部分であるが、こちらは茶褐色になっている。



2000年11月に撮影したマガモ。冬鳥として渡来したころです。この時は金色に輝いて見えました。